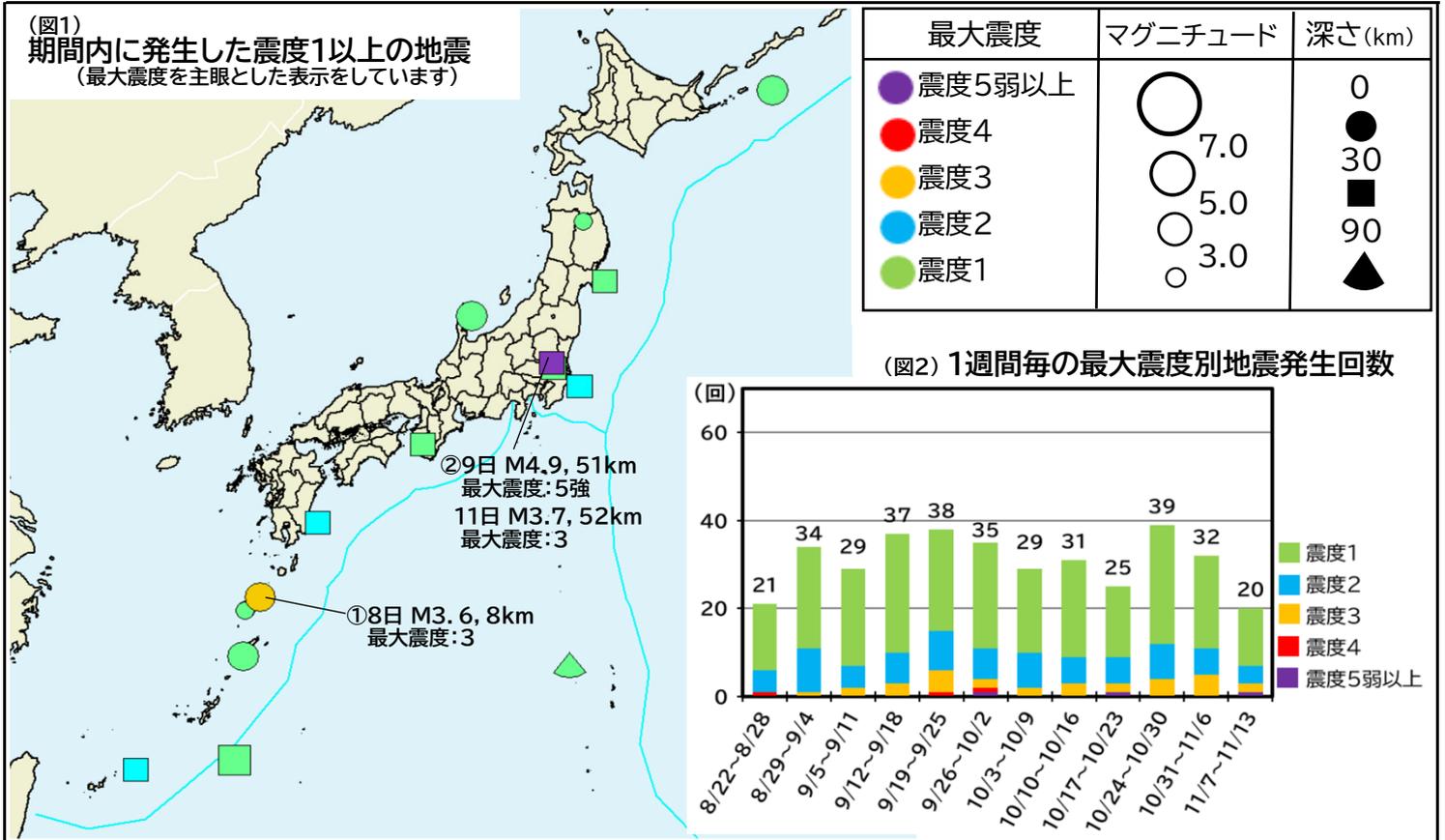


この期間の最大震度は5強(茨城県南部で発生)

本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典:気象庁震度データベース/地震情報)



主な地震の発生状況 (図1,図2参照)

- この期間、震度1以上の地震が20回発生。最大震度は5強(茨城県南部で発生)。 ■
- ①8日14時14分にトカラ列島近海で発生した地震(M3.6、深さ8km)により鹿児島県十島村諏訪之瀬島で震度3、悪石島で震度2、中之島で震度1を観測。この付近は、まとまった地震活動が時々見られる領域で、本年9月から活発な活動が続いている。
- ②9日17時40分に茨城県南部で発生した地震(M4.9、深さ51km)により、茨城县城里町で震度5強を観測したほか、宮城県、福島県、関東甲信越地方及び静岡県で震度4~1を観測。この地震は、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生したと推定される逆断層型。この地震により、軽傷1人の被害が生じた(総務省消防庁による)。ほぼ同じ場所で11日にも城里町で最大震度3を観測(トピックス参照)。

トピックス

- 茨城県南部の地震活動 ■
- ・茨城県は陸のプレートの下にフィリピン海プレートと太平洋プレートの2つのプレートが重なり合うように沈み込んでいる複雑な地下構造となっており地震活動が活発な地域です。
- ・このように複雑な地下構造であるため地震が発生する場所は、フィリピン海プレート等のプレート内部で発生するもの、太平洋プレートとフィリピン海プレート等のプレート境界で発生するもの等多様です。
- ・地震の発生場所をよく見ると、北北西-南南東に並ぶ2列の地震群に分かれて発生している様子が見られます(図3の緑破線)。その一つは、西の鬼怒川側(深さ40~60kmと、もう一つは東の筑波側(深さ50~80km)の地震群です。
- ・11月9日の地震は、東の筑波側で発生したもので、震源の深さや発生仕方からフィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生したと推定されます。
- ・茨城県南部は震度1以上を観測する地震が多い割に、被害を伴う地震が少ないという特徴があるとも言えます。

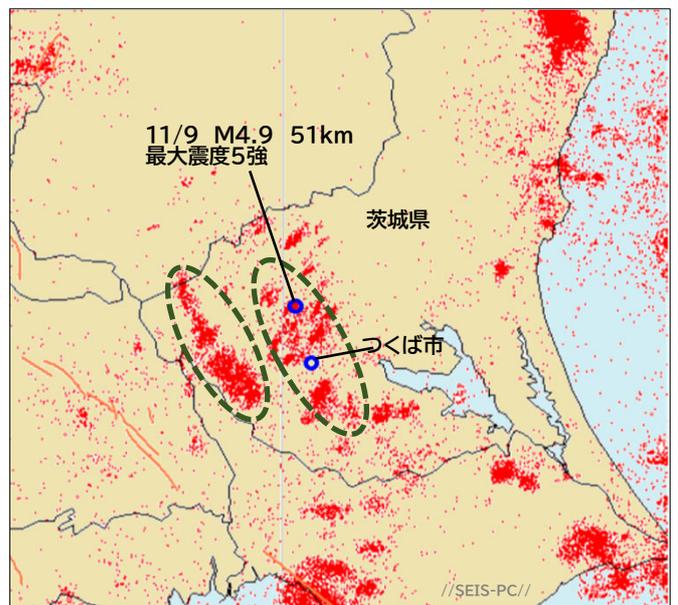


図3:震央分布図 1997年10月から2022年11月13日 M≧2.0